第十三講・注文の多い料理店②（物語文）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

【①どうかぼうしと外とうとくつをおとりください。】

「どうだ、取るか。」

「しかたない、取ろう。確かによっぽどえらい人なんだ。おくに来ているのは。」

二人はぼうしとオーバコートをくぎにかけ、くつをぬいでペタペタ歩いて戸の中に入りました。

戸のうら側には、

【②ネクタイピン、カフスボタン、眼鏡、さいふ、その他金物類、ことにとがったものは、みんなここに置いてください。】

と書いてありました。戸のすぐ横には、黒ぬりのりっぱな金庫も、ちゃんと口を開けて置いてありました。かぎまでそえてあったのです。

「ははあ、何かの料理に電気を使うとみえるね。金気のものはあぶないと、こういうんだろう。」

「そうだろう。してみると、かんじょうは帰りにここではらうのだろうか。」

「どうもそうらしい。」

「そうだ。きっと。」

二人は眼鏡を外したり、カフスボタンを取ったり、みんな金庫の中に入れて、パチンとじょうをかけました。

少し行きますとまた戸があって、その前にガラスのつぼが一つありました。戸にはこう書いてありました。

【つぼの中のクリームを顔や手足にすっかりぬってください。】

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

見ると確かにつぼの中のものは牛乳（ぎゅうにゅう）のクリームでした。

A「クリームをぬれというのはどういうんだ。」

B「これはね、外が非常に寒いだろう。部屋の中があんまりあたたかいとひびが切れるから、その予防なんだ。どうもおくには、よほどえらい人が来ている。こんなとこで、案外ぼくらは、貴（き）族（ぞく）と近づきになるかもしれないよ。」

二人はつぼのクリームを顔にぬって手にぬって、それからくつ下をぬいで足にぬりました。それでもまだ残っていましたから、それは二人ともめいめいこっそり顔へぬるふりをしながら食べました。

それから大急ぎで戸を開けますと、そのうら側には、

【クリームをよくぬりましたか、耳にもよくぬりましたか。】

と書いてあって、小さなクリームのつぼがここにも置いてありました。

C「そうそう、ぼくは耳にはぬらなかった。あぶなく耳にひびを切らすとこだった。ここの主人は実に用意周とうだね。」

D「ああ、細かいとこまでよく気がつくよ。ところで、ぼくは早く何か食べたいんだが、どうも、こう、どこまでもろう下じゃしかたないね。」

すると、すぐその前に次の戸がありました。

【料理はもうすぐできます。十五分とお待たせはいたしません。すぐ食べられます。早くあなたの頭にびんの中のこう水をよくふりかけてください。】

そして戸の前には、金ぴかのこう水のびんが置いてありました。

二人はそのこう水を、頭へパチャパチャふりかけました。

ところが、そのこう水は、どうもすのようなにおいがするのでした。

E「このこう水は変にすくさい。どうしたんだろう。」

F「まちがえたんだ。下女がかぜでもひいてまちが

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

えて入れたんだ。」
二人は戸を開けて中に入りました。
戸のうら側には、大きな字でこう書いてありました。
【いろいろ③注文が多くてうるさかったでしょう。お気の毒でした。もうこれだけです。どうか、体中に、つぼの中の塩をたくさんよくもみこんでください。】
なるほどりっぱな青い瀬戸（せと）の塩つぼは置いてありましたが、今度という今度は、二人ともぎょっとして、④おたがいにクリームをたくさんぬった顔を見合わせました。

〈宮沢賢治（みやざわけんじ）「注文の多い料理店」より〉

---

(1)　——線①・②の注文を読んで、二人はなぜそうしなければならないと考えましたか。それぞれあとの**ア**〜**エ**から、ふさわしくないものを選び、記号で答えましょう。ただし、一つとは限りません。

①　【どうかぼうしと外とうとくつをおとりください。】

ア　食事をするのに、ぼうしと外とうとくつは必要ないから。

イ　料理店の主人が、ぼうしも外とうもくつもきらいだから。

ウ　えらい人が来ているのに、ぼうしや外とうやくつを身につけているのは失礼だから。

エ　ぼうしと外とうとくつをとると、料理がおいしく感じられるから。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

②【ネクタイピン、……みんなここに置いてください。】

ア　食事をするのに、金物類は必要ないから。

イ　料理に電気を使うので、金物類はあぶないから。

ウ　帰りにここでお金をはらうので、さいふも置いていけばよいから。

エ　えらい人が来ているので、とがったものを持っているとあやしまれるから。

(2)　Ａ～Ｆの言葉からは、二人のどんな気持ちが分かりますか。次の中からもっともふさわしいものをそれぞれ選び、記号で答えましょう。ただし、同じ記号を二度以上使ってもかまいません。

ア　あれ？　何かおかしい。

イ　細やかな心配りがありがたい。

ウ　いったいいつ料理が食べられるのだろう。

エ　何もおかしくはない。えらい人に会えるかもしれないぞ。

オ　きっと何かのまちがいだ。気にすることはない。

カ　気味が悪いからもう帰りたい。

キ　何だか楽しそうなことだなあ。

Ａ　　Ｂ　　Ｃ　　Ｄ　　Ｅ　　Ｆ

(3)　――線③「注文」は、だれがだれにしているのですか。Ａは自分で考え、Ｂは本文からぬき出して答えましょう。

Ａ［　　　　］が　Ｂ［　　　　］に　注文している。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(4)　――線④「おたがいにクリームをたくさんぬった顔を見合わせました」とありますが、なぜですか。次の［　］あ〜うにあてはまる言葉をあとのア〜エからそれぞれ選び、記号で答えましょう。

　戸に書かれた文を読んで、今度という今度は二人とも［あ］とした。今まで、料理を［い］ためにいろいろ準備させられていると思っていたけれど、もしかすると自分たちが［う］ためだったのかもしれないと、やっと気づいたからだ。

ア　ほっ　　**イ**　ぎょっ
ウ　食べられる　　**エ**　食べる

あ［　］
い［　］
う［　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　**次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。**

「どうもおかしいぜ。」

「ぼくもおかしいと思う。」

「たくさんの注文というのは、向こうがこっちへ注文してるんだよ。」

「だからさ、西洋料理店というのは、ぼくの考えるところでは、西洋料理を、来た人に食べさせるのではなくて、来た人を西洋料理にして、食べてやるうちと、こういうことなんだ。①これは、その、つ、つ、つ、つまり、ぼ、ぼ、ぼくらが……。」

がたがたがたがたふるえだして、もうものが言えませんでした。

「その、ぼ、ぼくらが、……うわあ。」

がたがたがたがたふるえだして、もうものが言えませんでした。

「にげ……。」

がたがたしながら、一人のしんしは後ろの戸をおそうとしましたが、どうです、戸はもう一分も動きませんでした。

おくの方にはまだ一枚(まい)戸があって、大きなかぎあなが二つ付き、銀色のホークとナイフの形が切り出してあって、

【いや、わざわざご苦労です。たいへんけっこうにできました。さあさあ、②おなかにお入りください。】

と書いてありました。おまけに、かぎあなからは、□二つの青い目玉がこっちをのぞいています。

「うわあ。」③がたがたがたがた。

「うわあ。」がたがたがたがた。

二人は泣きだしました。

すると、戸の中では、こそこそこんなことを言っています。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「だめだよ。④もう気がついたよ。塩をもみこまないようだよ。」

「あたりまえさ。⑤親分の書きようがまずいんだ。あすこへ、いろいろ注文が多くてうるさかったでしょう、お気の毒でしたなんて、⑥まぬけたことを書いたもんだ。」

「どっちでもいいよ。どうせ⑦ぼくらには、ほねも分けてくれやしないんだ。」

「それはそうだ。けれども、もしここへあいつらが入ってこなかったら、それはぼくらの責任だぜ。」

「よぼうか、よぼう。おい、お客さんがた、早くいらっしゃい。いらっしゃい。いらっしゃい。お皿もあらってありますし、菜っ葉ももうよく塩でもんでおきました。あとは、あなたがたと、菜っ葉をうまく取り合わせて、真っ白なお皿にのせるだけです。早くいらっしゃい。」

「へい、いらっしゃい、いらっしゃい。それともサラドはおきらいですか。そんならこれから火をおこしてフライにしてあげましょうか。とにかく早くいらっしゃい。」

二人はあんまり心をいためたために、顔がまるでくしゃくしゃの紙くずのようになり、おたがいにその顔を見合わせ、ぶるぶるふるえ、声もなく泣きました。

中では、フッフッと笑って、またさけんでいます。

「いらっしゃい、いらっしゃい。そんなに泣いては、せっかくのクリームが流れるじゃありませんか。⑧へい、ただいま。じき持ってまいります。⑨さあ、早くいらっしゃい。」

〈宮沢賢治（みやざわけんじ）「注文の多い料理店」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「これは、その、……ぼくらが……」と言葉がつまっているのはなぜですか。次の中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えましょう。

ア　自分たちが大変な立場にあることに気づき、とてもおそろしくなったから。
イ　いったいどんなものを食べさせられるか分からないと、とても不安になったから。
ウ　相手が近づいてくるのが分かり、だんだんといかりがこみ上げてきたから。

(2)　――線②「おなか」には二つの意味がふくまれています。それぞれ「なか」の意味がよく分かるように答えましょう。

(3)　□にもっともよくあてはまる言葉を次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　うろうろ　イ　きょろきょろ
ウ　ひょろひょろ　エ　ちょろちょろ

(4)　――線③「がたがたがた」の表現について述べたものとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　ふるえるときの音が大きいことを表している。
イ　泣きながらふるえている様子がよく分かる。
ウ　とてもはげしくふるえている様子がよく分かる。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(5)　――線④「もう気がついたよ」とありますが、どんなことに気がついたと言っているのですか。次の中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えましょう。

ア　そろそろ料理を食べさせてもらえるということ。
イ　すぐ近くに「親分」がいるということ。
ウ　自分たちが食べられてしまうということ。

(6)　――線⑤「親分」、⑦「ぼくら」とありますが、「ぼくら」は、「親分」に対し、何に当たるのですか。漢字二字で答えましょう。

(7)　――線⑥「まぬけたこと」とありますが、「ぼくら」もまぬけたことを言っているところがあります。その文を二つぬき出しましょう。

(8)　二人のしんしの絶望(ぜつぼう)的な様子を、たとえを使って表現しているところがあります。その部分をぬき出しましょう。

(9)　――線⑧・⑨は、それぞれだれに対して言った言葉ですか。

⑧

⑨

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十三講・確認テスト

次の中から類義語を選びなさい。

１　興味
ア　寒心　　イ　関心
ウ　感心　　エ　希望

２　準備
ア　用意　　イ　心配
ウ　備品　　エ　標準

３　向上
ア　上部　　イ　進行
ウ　進歩　　エ　上段

４　不安
ア　安心　　イ　心配
ウ　安全　　エ　不信

５　期待
ア　期日　　イ　活気
ウ　大切　　エ　希望

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十三講　注文の多い料理店②（物語文）

一題目

(1) ①ア・イ・エ
②ア・エ

(2) A　ア
B　エ
C　イ
D　ウ
E　ア
F　オ

(3) A　店（の主人）
B　二人

(4) ㋐イ
㋑エ
㋒ウ

二題目

(1) ア

(2) （例）部屋（戸）の中
（例）はらの中

(3) イ

(4) ウ

(5) ウ

(6) （例）子分

(7) ・あとは、あなたがたと、菜っ葉をうまく取り合わせて、真っ白なお皿にのせるだけです。
・そんならこれから火をおこしてフライにしてあげましょうか。

(8) 顔がまるでくしゃくしゃの紙くずのようになり

(9) ⑧親分
⑨二人（のしんし）

〈確認テストの解答〉

1　イ　2　ア　3　ウ　4　イ　5　エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。